

2021年度持田記念学術賞ならびに研究助成等について

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団（理事長：持田直幸、以下「当財団」）は2021年度の持田記念学術賞受賞者、ならびに研究助成金および留学補助金交付対象者を決定しましたのでお知らせいたします。

今年度の持田記念学術賞には19名の研究者が推薦され、その中から東京大学の西村栄美博士と理化学研究所の大野博司博士を選出しました（褒賞金：1000万円/件）。研究助成および留学補助には727件の申請があり、研究助成金交付対象者121名（300万円/件）、留学補助金交付対象者20名（50万円/件）を選出しました。

今年度は研究者招聘助成金交付対象10学会（50万円/件）を含めて研究助成金等として総額3億9800万円を贈呈します。

研究領域		研究助成	留学補助	学術賞	招聘助成
領域1	バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究	16件	3件	2件	10件
領域2	バイオ技術を基盤とするゲノム機能/病態解析に関する研究	18件	5件		
領域3	免疫/アレルギー/炎症の治療ならびに制御に関する研究	25件	5件		
領域4	循環器/血液疾患の病態解析/治療制御に関する研究	21件	4件		
領域5	創薬・創剤の基盤に関する研究	23件	1件		
領域6	創薬とその臨床応用に関する研究	18件	2件		
合計		121件	20件	2件	10件

当財団は1983年10月の設立以来、研究助成2470件（計49億7699万円）、留学補助571件（計2億8550万円）、持田記念学術賞76件（計4億1200万円）、研究者招聘助成289件（計1億4396万円）の総額58億1845万円の助成ならびに贈呈を行っております。当財団は、今後も多くの研究者へ研究支援を行い、医学・薬学の振興に貢献してまいります。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団 zaidan@mochida.co.jp

2021年度持田記念学術賞受賞者



西村 栄美 (にしむら えみ) 博士

東京大学 医科学研究所

老化再生生物学分野 教授

受賞研究テーマ

「組織幹細胞と臓器の発生、再生、老化、癌化の研究」

西村博士は、黒髪のもととなる色素幹細胞を同定し、加齢などにより色素幹細胞や毛包幹細胞の維持ができなくなると白髪や脱毛をそれぞれ引き起こすことを明らかにしました。また、「自己複製チェックポイント」の概念を提唱し、ストレスを受けた幹細胞を早期に組織から淘汰することで幹細胞プールの質を保っており、これが器官の再生、老化、癌化など運命の決め手にもなることを明らかにしました。

表皮においては幹細胞同士が競り合うことにより「細胞競合」と呼ばれる現象を引き起こし、ストレスを受けた幹細胞が近隣の幹細胞の対称性分裂と連動して排除されることで、その品質と若さを長く保つことを示しました。上皮系臓器が幹細胞の競争と淘汰により臓器を柔軟かつ頑強に維持しており、ついには残存幹細胞が細胞競合を起こさなくなることで老化が顕著となることを明らかにしました。西村博士の研究成果は上皮系臓器が発生後に恒常性を維持する普遍的なメカニズムとして認識され、癌などの疾患との関連においても発展することが期待され、世界を先導する先見的・独創的な研究業績であります。

- 主な略歴
- 1968年 11月 2日生
 - 1994年 3月 滋賀医科大学 医学部 卒業
 - 1994年 4月 京都大学 医学部附属病院 皮膚科勤務
 - 2000年 3月 京都大学 大学院医学研究科 修了 博士号取得
 - 2000年 8月 米国 Dana-Farber Cancer Institute 博士研究員
 - 2004年 9月 北海道大学 創成科学研究機構 特任助教授
 - 2006年 4月 金沢大学 がん研究所 教授
 - 2009年 3月 東京医科歯科大学 難治疾患研究所 教授
 - 2021年 2月 東京大学 医科学研究所 教授

○主な受賞歴

- 2012年 日本学術振興会賞 2012年 日本学士院学術奨励賞 2021年 文部科学大臣表彰科学技術賞

2021年度持田記念学術賞受賞者



大野 博司 (おおの ひろし) 博士

理化学研究所 生命医科学研究センター

粘膜システム研究チーム チームリーダー

受賞研究テーマ

「健康と病態に関わる宿主-腸内細菌相互作用の包括的理解」

大野博士は、腸内細菌が上皮細胞層を越えて宿主に取り込まれる際に、特殊な上皮細胞であるM細胞の表面マーカーとしてGP2を同定し、取り込み受容体として腸管免疫応答誘導に重要であることを明らかにするなど、M細胞の分化の分子機構や細菌取り込みの環境の分子基盤を次々と明らかにしてきました。

また、遺伝子から代謝産物に至る各階層の網羅的解析「統合オミクス解析手法」を考案・駆使して、それにより腸内細菌の代謝産物である酢酸による病原性細菌の感染の予防効果を明らかにするなど、腸内細菌の代謝物による腸管免疫応答の制御を解明してきました。

さらに、自己免疫疾患についても腸内細菌による影響を見出しており、腸内細菌への介入に基づく新たな自己免疫疾患制御法の開発に繋がるのが期待されます。大野博士の宿主側からの腸内細菌叢の制御と腸内細菌が宿主に及ぼす影響という双方向からの研究成果は宿主-腸内細菌相互作用の分子的理解の基盤をなすものであり、世界を先導する先見的・独創的な研究業績であります。

- 主な略歴
- 1958年 10月 27日生
 - 1983年 3月 千葉大学 医学部 卒業
 - 1991年 3月 千葉大学 大学院医学研究科 修了 博士号取得
 - 1991年 4月 千葉大学 医学部 助手
 - 1994年 4月 米国 National Institutes of Health 訪問研究員
 - 1997年 5月 千葉大学 医学部 助教授
 - 1999年 4月 金沢大学 がん研究所 教授
 - 2004年 4月 理化学研究所 免疫・アレルギー科学総合研究センター チームリーダー
 - 2018年 4月 理化学研究所 生命医科学研究センター チームリーダー

○主な受賞歴

- 2016年 ベルツ賞
- 2018年 文部科学大臣表彰科学技術賞
- 2018年 野口英世記念医学賞